

「愛知県長良川河口堰最適運用検討委員会 10 年の検討の整理と、変化の時代における長良川河口堰の課題と取り組みの方向」（仮称）の構成事項（案）

（1）検討委員会 10 年の検討経緯

- 1) 検討委員会と国土交通省との意見交換と課題の整理
- 2) 利水、塩水遡上、環境に関する検討の整理
- 3) 合同委員会設置の議論の整理
- 4) 県民に対する長良川河口堰に関する知識の普及、啓発活動の整理
- 5) その他

（2）長良川河口堰に関する現在の課題

- 1) 長良川河口堰建設後の長良川の変化（河床形状、環境、塩害、利水・洪水）
 - ①河川形状の変化と洪水・高潮時の河口堰の運用と塩分の変化
 - ②環境の変化
 - ③愛知県・名古屋市の利水状況の変化
- 2) 生物多様性条約のポスト愛知目標、SDG s（環境と生物資源の利用）
- 3) 長良川流域の水循環、伊勢湾への影響
- 4) 少子高齢化・コロナ後の社会経済構造の変化（水の使い方）
- 5) 長良川河口堰と災害（気候変動・地震など）の状況・予測、国土強靱化施策
- 6) 長良川河口堰の大規模改修（経年劣化、地震などの原因）とその費用負担
- 7) 愛知県民・県民以外の方にとっての長良川河口堰の最適運用
- 8) 世界の河口堰の最適運用事例（世界の動向）
- 9) その他

（3）長良川河口堰最適運用実現に向けた今後の検討のあり方

- 1) 時代の変化に対応した検討委員会のあり方
- 2) 国土交通省・水資源開発公団、長良川河口堰関係者との対話のあり方
- 3) 県民・県民以外の方に対する長良川河口堰に関する知識の普及、啓発のあり方
- 4) その他

（4）その他